# 西之表市横山の盆踊

【所　在　地】西之表市横山（横山の盆踊保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 43 年 3 月 29 日

この盆踊は種子島盆踊の本流をふまえながら，寛永５（1628）年，島津氏の命により種子島に遠島になって自害した比志島国隆の後を追って殉死し，節婦とされた阿久根千代女の心情をしのびつつ，毎年七夕の夜，踊ってきた。現在は，横山神社（もとの万徳寺）の境内で踊られ，年中行事となっている。

踊り手は全員ゆかたがけで刀を差す。男性は，カムキ（冠）といって白い布で顔をおおい，目だけ出して踊り，女性は花笠をかぶって踊るのが大きな特色である。また，踊り始めの時に笹竹を持った人が輪の中を腰をかがめて庭清めをして廻ると「めでためでた」の歌が始まり，踊り出す。その次が「阿久根千代女」の歌で，踊り手たちはシキビ（榊）の枝を持って踊る。そして次々にちがう歌が歌われ，踊られる。横山の盆踊は，歌曲も手ぶりも優雅で壮重，祖霊を送迎する心のこもった本当に盆踊らしい盆踊である。